

おたる 西別院だより



季刊 第80号

◇総裁（お裏方）様ご臨席◇ 平成19年10月5日（金）

本願寺小樽別院仏教婦人会創立100周年記念式典
双葉高等学校創立100周年記念式典
小樽幼稚園創立100周年記念式典

於、小樽別院本堂
於、双葉高等学校
於、小樽幼稚園

降誕会を迎えて 「親と子の語り」



輪番 大嶋 俊明

この度、平成十八年十二月二十五日付、輪番を拝命いたしました。はなはだ微力の身ではございますが、別院の護持発展とご法義繁盛のため精励努力いたす所存でありますので宜しくお願い申し上げます。

さて、私たちは、科学技術の飛躍的な発達によって、多くの恩恵を享受しています。しかしながら、そのことが逆に人心の荒廃をまねき、現在、社会問題になっている「いのち」に関わる様々な事件をも引き起こしているのではないのでしょうか。親が子を虐待し、子の命を奪う。また、子が親の命を奪うという現状を目の当たりにするとき、本当に空恐ろしく感じる。「いのち」というものは、そんなに軽いものであったのか。はたして「いのち」の尊さは、何処に行ってしまったのであるのか。もしも、この「いのち」の問題が、現代社会における人間関係に大き

く起因するものとするならば、このような考え方ができるのではないか。それは幼少年期から青年期へ、そして大人へと成長する過程に見出すべき問題点があるように思う。その一例としてあげられるのが、所謂「親と子の会話」の減少である。大人の低年齢化によって親子関係が周囲から「兄弟、姉妹のようですね」と表現されるような風潮を生み出し、親が子を思う心、子が親を信じる心が薄らいできているのではないか。私は、家族のことを考えると、浄土真宗の妙好人である「越中幼女」の話を思い出す。越中、今の富山県のことであるが、七歳になる女の子がおり、疱瘡という重い病にかかった。そして、両親は、その症状が次第に悪化していく様子を見て、娘と次のような会話を交わすのである。母親「もしかしら前前は再び元気にはなれないかもしれないだよ。もしも今死んだとしたら、お前はいつた何処へ行くのたえ」すると、娘はしっかりと目を見開いて、問いかける母親の顔を不審げに眺めて娘「私は死んだら極楽に行くのよ、だって、阿弥陀様がご馳走をいっぱいこしらえて待ちかねていて下さるのだから。」そう答えながら「南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏」と称名するのであった。母親はさらに念をおさないではいられなかった。母親「その極楽へはお前はどうかやって行くつもりなの？」娘「もちろん阿弥陀さまに背負われてゆくよ」と、けなげな答えが返ってきた。ここには励ましや

慰めなどの言葉は一切ない。親子の間ではお互いに判りあっていたのである。父親が重ねてたずねる。父親「どうして阿弥陀さまはお前を背負っていらつしやるのかな？」娘「私もはつきりは判らぬけれども、阿弥陀さまは私のことがいとしゅうてならんそうなの」この会話は、わが子がお念仏の教えをどのようにに領解しているのか。親として、娘の後生の一大事を確かめようとしているのである。これは本願寺出版社から発行された「妙好人を訪ねて・越中幼女の巻」から抜粋要約したものであるが、これを読み返すたびに、現代の親子関係に重ねてみれば、わが子が明日をもしれぬ病に苦しんでいるとき、このような真剣な問いをすることができ親がどれほどいるのかと考えさせられるのであります。

私たちは、混迷の時代を導き、いのちの尊さにめざめ、心豊かに生きることのできるお念仏のみ教えに出遇わせていただきました。このうちは、私たちが一人一人が宗祖親鸞聖人のみ教えを次の世代に伝えていくとともに、おかげさまの日々を過ごさせていただきましたと思います。

なお、別院では今年十月五日に京都本願寺より総裁（お裏方）様のご臨席をいただき「小樽別院仏教婦人会・双葉高校・小樽幼稚園創立百周年記念式典」を執り行います。

門信徒の皆様には、この百周年のご勝縁にご参拝いただきますよう宜しくお願い申し上げます。 合掌

輪番退任挨拶

前輪番 岩間 行則

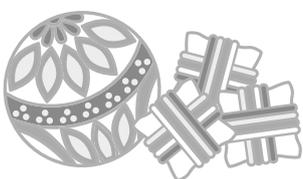
慈光のもと、皆様には益々ご健勝にてご法義相続のこととお慶び申し上げます。

さて、昨年十二月二十五日付で沖繩県宗務事務所長・本願寺沖繩別院輪番を拝命致し、極寒の地から常夏の沖繩へ赴きました。

小樽別院では二年九ヶ月の短い期間でありましたが、「本堂の大修復」やご門主様をお迎えして「親鸞聖人七五〇回大遠忌法要」など、門信徒の皆様には大変なご理解とご協力をいただき完遂できましたこと厚く御礼申し上げます。

「おばんです」から「めんそーれ」と言葉・習慣や宗教事情の異なる中で如何ほどお役に立てるか心許ない限りですが、皆様から頂いたご厚情を宝物として精一杯を尽くして参りたいと存じます。

沖繩にお出かけの折は是非お立ち寄り下さい。



みんなで親鸞さまのお誕生（降誕会）をお祝いいたしましょう



本山での宗祖降誕会

「述べておられ
てくださった
支えていく
ださることを
教えてくださ
いました」と

「目に
見えるものだけがあるのではない。ある
いは、役に立つものだけがあるのではない。あるいは役に
立つ、便利であるかということにかか
わらず、いのち恵まれた大切さに気付
かせていただく大事なおはたらきが、阿
弥陀さまから私たちに伝えられていま
す。親鸞聖人は、阿弥陀さまが南無阿
弥陀仏となつ
てわたくした
ちをよんでい
てくださる、
支えていく、
ださることを
教えてくださ
いました」と



小樽別院での初参式

「願
うように
また人間に生
まれた慶びを
かみしめつつ
人生を力強く
歩んでくれる
ようにと、親
なら誰もが願

「二十日）に宗祖降誕会をお勤めさせて
いただきます。
また、宗祖降誕会にあわせて初参式
を執り行います。
赤ちゃんの誕生は、両親や家族にとつ
て何ものにも代えがたい慶びの一つで
しょう。人としてこの世に生を受けるこ
とは極めて得難いことであり、不思議
としか言いようがありません。
このかけがえのないのちがすすくす
くと育つてく
れるように
また人間に生
まれた慶びを
かみしめつつ
人生を力強く
歩んでくれる
ようにと、親
なら誰もが願

降誕会とは、もともと仏祖
（釈尊）のお誕生をお祝いする
集いのことですが、親鸞聖人を
宗祖と仰ぐ私たちは、聖人の
お誕生を喜ばせていただく法
要を「宗祖降誕会」といいます。
思えば、聖人のお誕生がなけ
れば、私たちは阿弥陀如来の真
実のみ教えに出遇うことができ
ませんでした。生死出づべき道
を明らかにしてくださったのが
親鸞聖人であります。



小樽別院での宗祖降誕会

「この法要をご縁と
して、今一度「命あ
ること」の尊さをか
みしめ、阿弥陀さま
の大きなお慈悲に照
らされていることを
感謝したいものです。
小樽別院では毎年
五月二十一日に近い
日曜日（今年には五月



小樽別院宗祖降誕会
華の展示



小樽別院宗祖降誕会 お抹茶接待

「うところ
そうした我が子の人生の出発にあ
たつて、けつして崩れることのない拠り
所となり、支えとなつて下さる阿弥陀
さまに参拝する式を「初参式」とい
います。
年々小樽別院で初参式を受ける方が
増えておりますが、まだ仏縁を結んで
ないお子さまがいらつしやいましたら、
どうぞご家族おそいで初参式にお参
りください。大切なお子さまの一生の記
念を写真に残してお祝いさせていた
きます。
当日は「園児の絵」や「双葉高校生
徒による書・華の展示」また「お花教
室の方々による華の展示」で本堂を飾
ります。お抹茶の接待・お楽しみ会も
予定しておりますのでお誘いあわせの
うえ、宗祖降誕会にご参拝ください。

平成19年 親鸞聖人
ごらんたんえ
降誕会

- ◆日時 10:00 宗祖降誕会
初参式
法話
お楽しみ会
- ◆お抹茶の接待（ホール） 12:00 終了
- ◆書・華・絵の展示（本堂内）
- 書・華 双葉高校 生徒作品 華 お花教室 門徒作品
絵 小樽幼稚園・若竹保育所・新光保育園 園児作品

◆場所 小樽別院本堂

お知らせ：5月20日(日)は月忌参詣をお休みさせていただきます

おあさじのご縁をいただき

辻 祐子



私がおあさじに初めてお参りさせていただきましたのは、平成十六年四月頃でした。

他所より来て、入院しておりました母が退院し、誰ひとり知らぬ土地で信仰の厚い母を連れ、お参りさせていただくようになりました。私自身最初は、親孝行のつもりでいつまで続くのかしらと思っておりました。

そのうち五月からの百日参拝にも引き続きお参りさせていただき、ついに百日皆勤できました時、母の嬉しそうな表情を見てほっとすると同時に、逆に母が私をお寺に連れて行ってくれたのだと思えました。そして一緒に参拝されていた沢山の方々の温かい支えのおかげと感謝でいっぱいでした。今は立派に修復された本堂で澄んだ空気のなか、毎朝大きな声でおつとめさせていただくとき、一日の始まりに身も心もひきしまる思いが致します。

これからも健康に気をつけお参りできる事に感謝しつつ日々過ごしたいと思っております。

百日参拝のご案内

五月一日（火）より八月八日（水）まで、小樽別院 奥沢説教所、新光説教所において、おあさじの百日参拝を実施いたします。毎朝六時三十分から勤まり、期間中お参りされた方に皆勤賞・精勤賞をご用意しております。一年で過ごしやすい時節、早起きしてご参拝ください。

お寺のイロハ⑤ 浄土真宗の現世利益

最近「スピリチュアル」（精神的な・霊的な意）という単語が広く浸透しています。かつてはどちらかというと怪しいイメージで捉えられていた「守護霊・前世・魂・オーラ」という言葉がテレビや書籍の影響もあって私達の生活のなかで身近になってきた気がします。

それではなぜ最近ブームになってきたのでしょうか？ある方は今のスピリチュアルブームの特徴を、前世でもオーラでも何でも良くて、それによってこの私が幸せになる。その極めて自己中心的な欲望を満たすための手段になっていると言及しておられました。

身勝手な欲望に応える、あるいは自己の思索や判断を他に委ねて、自分自身を見直さないのは問題です。ひと昔前に流行った「風水」や「六星占術」の代わりに深く考えることなく自分の都合のよいものを選んでいくような気がします。手軽だとかオシャレだというイメージが先

行して、誤った自分勝手な解釈で現世利益を捉えているのではないのでしょうか？

では浄土真宗における現世利益とは何でしょうか？お釈迦様は「財や色をむさぼることは、子どもが刃に塗られた蜜をなめるように、甘さを味わっているうちに、舌を切るのである」とおっしゃっています。真実を求めずに利益のみを求めずからに他ならないのです。

財も、いのちも失っていく心配から逃れられない世の中にあつて、本当の現世利益とは南無阿弥陀仏のおはたらきで、「現実に向き合い受け入れる力」であり、「それをいつの世であつても誰もが受け取ることができる」六字の名号のほかにありません。浄土真宗の現世利益とは、煩惱（悩み）をいっぱい抱えて生きる私達の命を支えてくださり、本願を信じ念仏申す者を仏力によってこの世の縁が尽きた時、必ずさとりを開いて仏様にさせていただくということです。

念仏奉仕団に行つてきました

室谷 芙美子



暖かい日差しを受け、全員元気で小樽を出発し、千歳空港より神戸空港へ到着し、ホテルにチェックインしてから、ハイヤーにて神戸別院へ参拝させていただきました。十年前の震災後に建立されたモダンな寺院は一見して教会を思わせる造りでしたが、厳かな雰囲気



本山境内にて

た。その後、中華街を散策しそこで夕食をいただきました。二日目は、午前中に大谷本廟を参拝させていただきました。本廟に納骨してから二年ぶりにお参りさせていただきましたが、手を合わせお

ました。念仏申すと亡き主人に遇えた気がしました。二日目から三日目にかけての奉仕団では、西本願寺の総御堂の拭き掃除や白州の掃き掃除をお手伝いしました。お抹茶の接待や書院を拝観できたこと、またご門主様との記念撮影も印象的でしたが、本山のおあさじに参拝できたことが特に印象的でした。そ

れまで観光気分に参加していたことへの恥ずかしさがこみあげ、心が洗われるおもいでした。最後の鳥羽温泉では、陛下もお泊まりになったといわれる素晴らしい旅館で一泊させていただきました。すべての日程で天候に恵まれたありがたい旅でした。

最後になりましたが、御輪番が本当に気さくに私たちに接してくださいましたおかげで、今まで遠かったお寺に親しみをもつことができました。又、職員の皆様・参加者の方にも大変お世話になりました。婦人会にもお誘いいただき、お寺へ来る機会がますます増えそうです。

また、このような機会があれば、みなさんとともに参加したいと願っております。

たモダンな寺院は一見して教会を思わせる造りでしたが、厳かな雰囲気

念仏申すと亡き主人に遇えた気がしました。二日目から三日目にかけての奉仕団では、西本願寺の総御堂の拭き掃除や白州の掃き掃除をお手伝いしました。お抹茶の接待や書院を拝観できたこと、またご門主様との記念撮影も印象的でしたが、本山のおあさじに参拝できたことが特に印象的でした。そ



神戸別院にて

れまで観光気分に参加していたことへの恥ずかしさがこみあげ、心が洗われるおもいでした。最後の鳥羽温泉では、陛下もお泊まりになったといわれる素晴らしい旅館で一泊させていただきました。すべての日程で天候に恵まれたありがたい旅でした。



参加団体掲示板



総御堂の清掃

別院門徒物故者

（平成十八年十一月一日～平成十九年二月二十八日現在）

以上のご門徒の方が、お浄土に還られました。
謹んでお念仏申し上げます。

合掌

本堂修復懇志新規進納者御芳名

（平成十九年二月二十八日現在）

●門徒懇志

金八拾萬円

玉木 良子

金六拾萬円

廣田千代子

藤井 幸子

金五拾萬円

高瀬 一彰

金四拾五萬円

田中幸子（赤岩）

金四拾萬円

榎 静江

山田 正弘

杉井 俊一

鷹島美智子

田村ヒロ子

小川 性一

向川 司郎

金岡 茂

池端 勝

菅田 孝志

高畑 昌充

井田 和雄

小林 トシ

関 勝美

浅野 千晶

大野アイ子（榎）

西田 親文

廣田千代子

小倉 稔

●崇敬寺院懇志

金貳拾萬円

留萌組法昌寺

（敬称略）

その他、分納にて多数の方々より
ご進納頂いております。
ご進納有難うございました。



ご 案 内

常 例 布 教

毎月7日～11日 午後1時30分
13日～16日 午後1時30分

お あ さ じ

毎日 午前6時30分

仏 教 婦 人 会

毎月15日 午前11時

仏 教 壮 年 会

毎月6日 午後7時

仏 教 青 年 会

毎月1回 午後6時30分

お つ と め 教 室

毎月2回(火曜日) 午後2時

お 講 (法 座) の 例 会

●樹心会	5日	午後7時	於 奥沢説教所
●唯信講	10日	正 午	於 奥沢説教所
●彰心会	7日	午後7時	於 若竹説教所
●無量講	9日	午後6時	於 小樽別院
●法友会	13日	午後6時	於 新光説教所
●19日講	19日	正 午	於 小樽別院

仏 教 が や が や 会

毎月15日 午後7時

日 曜 仏 教 講 座

毎月1回(第3日曜日)
午前9時30分

3分間の
心のともしび

小樽別院

テレホン法話

24時間
いつでも
どうぞ
TEL 27-1616

●テレホン法話担当表

4/ 1(日)～15(日)	村田	5/16(水)～31(日)	脇
4/16(月)～30(日)	温井	6/ 1(金)～15(日)	山邊
5/ 1(火)～15(日)	森	6/16(土)～30(日)	西川

職 員 退 職 の お 知 ら せ

鷺頭 千津子 さん

昭和五十五年五月より二十六年間に亘り別院職員としてお勤めいただきました鷺頭千津子さんが平成十八年十二月三十一日をもって退職されましたのでお知らせいたします。



編 集 後 記

右の4名のご門徒に編集委員として携わっていただき、皆様によるこんでいただける紙面をめざして年4回「おたる西別院だより」を発行しております。ご意見・ご感想等をお待ちしております。

編 集 委 員

平田 晴己
竹澤 知恭
宮本 和枝
福川ヨシ子

連 絡 先

本願寺小樽別院 小樽市若松1丁目4番17号
☎0134-22-0744 FAX 0134-29-4080

みんな

仲良し

小樽幼稚園



～まこと(いのち)の保育を行っています～



当園では、浄土真宗のみ教えに基づき「いのちの大切さ」「自然への感謝」「やさしい心」を育てる保育に努めています。

又、お絵かきや工作などのクラスでの活動の他に、プール遊びや、週に2・3回クラス合同のホールでのリズム遊びなどを通し、異年齢の交流を深めており、年長から年少までみんな仲良く遊んでいます。

是非一度見学にお越し下さい。（年中見学可能です。）

- ☆**保育時間**→月曜日～金曜日（8:30～14:00／冬期間（12月～3月）8:30～13:30）
- ☆**昼食**→お弁当～週2回／給食～週3回（パン食2回／米食1回）
- ☆**預り保育**→月曜日～金曜日（17:30迄）行います。（15:00迄は無料です／降園バス有）
- ☆**プール遊び**→年間を通して、温水プール遊びを行っています。（年長のみプール指導有）
- ☆**英会話**→月2回年長のみ行います。
- ☆**体操教室**→月1回年長・年中・年少に分かれて行います。
- ☆**送迎バス**→ご希望の方は、ご自宅付近まで送迎致します。
- ☆**主な行事**→花まつり・降誕会・運動会・親子遠足・バス遠足・いも掘り・報恩講・お遊戯会・おもちつきなど。
- ☆**ならし保育**→満2歳以上、就園未満のお子さんを対象に、火曜日クラスと木曜日クラス（毎週各1回）にて保育を行います。

※詳しくは、入園案内をごらんください。

園児募集

途中入園可能

- 募集園児 3歳児（H15.4.2～H16.4.1生まれ）
- 4歳児（H14.4.2～H15.4.1生まれ）
- 5歳児（H13.4.2～H14.4.1生まれ）

願書受付 新入園受付中です。

※事前に御連絡下さい。



学校法人 小樽龍谷学園

小樽市若松1丁目4番17号

小樽幼稚園

TEL FAX

0134-22-6536

御葬儀 年中無休 24時間受付

有限会社 小樽永楽社

小樽市長橋4丁目2-23
31-4949 (代)

生花を使って花祭壇

札樽葬祭(株)

TEL 34-0444
奥沢1-16-2

花の店 **カトリア(有)**

TEL 23-6487
奥沢1-17-3

広告募集

別院だよりに掲載して下さる、商店や業者等を募集しております。
詳しくは 0134-22-0744 別院だより担当者：森までご連絡下さい。